

今日のみ言葉 2』3 「あなたの重荷を主にゆだねよ」 2015. 9. 10

あなたの重荷を主にゆだねよ。主は、あなたを支えてくださる。主は決して、正しい者がゆるがされるようには なさらない。 (詩篇55の23)

Cast your cares on the LORD and he will sustain you; he will never let the righteous fall.

重荷は誰にでもある。また、いつでも私たちが生きているかぎりある。重荷がなくなったと思っても、また思いがけない重荷—自分や家族の病気その他の問題、職場のこと、あるいは将来のこと、高齢化にともなう数々の重荷、あるいは突然の災害や事故に巻き込まれて生きることそのものが重荷となること—また内乱、戦争のただなかにある人々、祖国で住むことができなくなった人、貧しさのために食物や医療にもかかれぬ人たち… 等々、いかなる時代も、どこにいてもさまざまな重荷がふりかかってくる。

そして人生の最後に、死という重荷が圧迫してくる。それは孤独や病気、あるいは動けないとか物忘れがひどくなった等々のゆえに人から軽視、無視されていくといった精神的な圧迫感までさまざまなものがある。

そのようなこの世において、何がいったいそうしたありとあらゆる重荷を軽くしてくれるのだろうか。

人間はそうした個々の人たちの重荷を軽くすることは、とてもできない。一部のものはともに担うこともできるだろう。しかし、病気のひどい痛み—ガン末期だと言われたときなど、その心身への重荷は医療、医者も家族もどうすることもできないものがあると推察される。

人は、しばしば日常のさまざまな重荷のゆえに、たとえ元気なときであってもさまざまな快楽でそれを忘れようとする。そうしたことのひとつとして大量のアルコール飲料が消費され、さらには麻薬のようなものまで用いられることがある。そうして自分や周囲まで害悪をもたらすことになる。またそうした重荷のゆえに、不満をもち、あるいは痛みや悩みにつぶされて生きていけなくなる場合もある。

私たち、いかなる重荷であってもそれを軽くしてくれるものを無意識的に求め続けている。しかし、どんな人に対しても重荷を軽くしてくれるもの—それは人間ではない。科学技術や医療でもない。それらすべてを超えたものでなければ人間のありとあらゆる重荷を軽くするものはない。

それが、はるかな昔から存在しつづけている愛と真実な神であり、そうした存在以外にはあり得ないということに気づく。

主イエスも、この詩がつくられてから—これがダビデのものとするれば千年ほどものちになって、このことを言われた。 (マタイ11の28)

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。



キキョウの仲間であるこのソバナは、花の多い伊吹山でもほとんどの人が訪れる山頂に近い駐車場からのいくつかの頂上への道でも見かけないもので、この写真は、ほとんど人が注目しない山の崖のようなところで咲いていたものです。

この花の名前はソバナですが、ソバ(岨)とは急斜面あるいは崖のようなところを意味する言葉で、若芽は食用にされていたとのことでこの名前があります。

さわやかな、薄い青紫色のこの花は、おそらくたいいていの人にとって好まれる色とその姿だといえます。

こうした青、あるいは青紫の花は、山野に自生するリンドウがとくに知られていますが、愛好されています。

しかし、この花やリンドウは一般の庭ではそぐわないように思われます。自然の山野において周囲のさまざまな野草とともに咲いているものが最も美しくまた私たちに語りかけるものを感じさせてくれます。

さらに青紫のこうした花は、私たちの頭上に広大な広がりを見せている大空の深さと清さをも思い起こさせ、そこからさらに神の国をも指し示しているようです。

赤い花は情熱、緑なす草原や若葉などは命の希望を感じさせ、そしてこの花のよう青は、澄んだ深いものの存在を私たちに指し示しています。

自然の世界には、とくに身近な植物にはさまざまな色、形、匂い(香り)、そしてさらに四季によって赤、黄色、褐色等々の葉の色の変化、そしてさまざまな色彩をもった果実をもつけます。

そして、樹木であれどその全体としての樹形、幹の表面や枝の伸び方等々もじつに変化があります。

そのような多様な姿をもって、神は私たちに自然を通してメッセージを伝えようとしておられるのを感じます。

それは普通の言葉でなく、霊的というべき言葉で語りかけているといえます。